

とっとり 土地改良だより



発行
みどり
水土里ネットとっとり
鳥取県土地改良事業団体連合会
〒680-0911 鳥取市千代水四丁目37番地
TEL (0857) 38-9500
FAX (0857) 38-9577
印刷 日ノ丸印刷株式会社




農業・農村フォトコンテスト2024 入選作品「春を待つ農村」日野町

目

○新年のご挨拶	鳥取県土地改良事業団体連合会	会長 松本 昭夫	…………… 2
	鳥取県 農林水産部 参事監 兼農業振興局	農地・水保全課長 森田 智彦	…………… 3
○年頭のごあいさつ	全国土地改良事業団体連合会	会長 二階 俊博	…………… 4
○新年にあたって	全国水土里ネット会長会議顧問	参議院議員 進藤金日子	…………… 5
	全国水土里ネット会長会議顧問	参議院議員 宮崎 雅夫	…………… 6
○第2回 監事会	…………… 7		
○令和6年度 統合整備推進研修(会計研修)	…………… 7		
次	〔シリーズ〕		
○あつまれ、 ^{みどり} 水土里のなかまたち	…………… 8		
○編集後記	…………… 8		



新年のご挨拶

鳥取県土地改良事業団体連合会
会長 松本 昭夫



年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員の皆様におかれましては、穏やかな新年を迎えられ、益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

また、平素より本会の運営並びに農業農村整備事業の推進につきましては、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、年明け早々、元日に北陸能登半島を中心とした大地震の発生があり、人命救助や被災者への支援が急がれる大変な年明けとなりました。本会は、農業集落排水管路調査に2名派遣、その後、農業集落排水管路実施設計など復旧に向けた支援をさせて頂きました。9月に発生した「令和6年奥能登豪雨」により一時中断しておりますが、応援要請があれば、再度支援することを考えています。

また、昨年は食料・農業・農村基本法が一部改正され、「農業生産の基盤の整備」であった条文が「農業生産の基盤の整備及び保全」となりました。これを受け、災害リスクの増大、施設の老朽化の進行等に対応できるよう国は、本年の通常国会に土地改良法の見直し案の提出を予定しています。

土地改良法の見直しにあたっては、基本法の改正を踏まえ、幅広い関係者の意見を集約・反映させながら、生産基盤の保全も含め必要な施策の拡充を行い、食料安全保障の強化や国土強靱化を一層推進していくこととしています。

その中で、「末端土地改良施設の維持管理について、土地改良区、市町村、多面的活動組織等が議論を進め、将来を見据えた体制を整える取り組みを後押しする。」とされています。

土地改良区は、農業用排水路等の土地改良施設の維持管理をこれまで主に担ってきており、今後も、これまで以上に期待されているところであります。

本会は、今後も皆様と共に鳥取県農業の維持発展のため、必要な農業農村整備事業の推進に積極的に取り組み、さらには、農業・農村（水・土・里）の役割や大切さを広報していくなど、皆様が抱えている諸課題の解決に向けて努力し、皆様から信頼される「県内唯一の農業土木プロ集団」を目指してまいりますので、引き続きご支援、ご協力をお願いいたします。

最後に、会員の皆様及び関係各位のご多幸とご健勝を祈念し、新年のご挨拶といたします。

会員の皆様に謹んで新春のお慶びを申し上げます

鳥取県土地改良事業団体連合会 役職員一同



新年のご挨拶

鳥取県 農林水産部 参事監 兼農業振興局
農地・水保全課長 森田 智彦



新年明けましておめでとうございます。

皆様には日頃から農業農村整備事業の推進にあたり、多大なるご協力とご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

ご存じのとおり、食料・農業・農村基本法（以下、「基本法」という。）の改正がなされ令和6年5月に公布・施行されました。改正基本法では、農業の持続的な発展に係る生産性及び付加価値等の向上を理念として、農地の区画拡大、水田の汎用化・畑地化、農業用排水施設の機能維持に対応した農業生産基盤の「整備」のほか、「保全」についても必要な施策を講じるように位置づけられました。今回の改正を契機として、防災減災対策や日本型直接支払制度等による地域社会の維持なども含め、一層、農業農村整備事業への期待が高まっており、農業・農村がこれまで果たしてきた役割が引き続き適切に発揮されることを願うところです。

さて、国の令和7年度の農業農村整備事業予算は前年度とほぼ同額の4,464億円、令和6年度補正予算を合わせると6,500億円が確保されました。この度の予算は、改正基本法を踏まえ、「スマート農業や需要に応じた生産に対応した基盤整備」、「農業生産の基盤の保全管理」、「防災・減災、国土強靱化」に沿った事業を推進していく上で必要な予算が計上されています。これは、土地改良関係団体の皆様方が農業農村整備事業の必要性を国に要請して頂いた結果であり、厚くお礼申し上げます。

鳥取県におきましては、防災重点農業用ため池の管理者や地域住民等が実施する保全管理・監視体制の確保及び防災減災対策を支援する「鳥取県ため池サポートセンター（令和3年4月設置）」に続き、老朽化の進む農業水利施設の長寿命化に向けた予防保全対策を着実に実施するため令和6年4月に「鳥取県農業水利施設サポートセンター」を鳥取県土地改良事業団体連合会内に設置したところです。開所式では、センター職員の方から「施設の老朽化に悩む管理者に対し、ICT技術等を活用し負担軽減をサポートし、鳥取県農業の生命線である農業水利施設の保全に努めたい。」と決意表明をして頂きました。県といたしましても、地域計画等の今後の地域農業のあり方の検討に合わせ、農業水利施設の保全や地元負担が軽減されるよう関係者が一丸となり農業者へ寄り添った支援を行って参ります。

最後に、鳥取県農業の活力を維持し、そして高めていく施策を推進するための羅針盤として策定された鳥取県農業生産1千億円達成プランの達成に向け、農業農村整備事業を通して本県の農業振興に全力で取り組んで参りますので、皆様方のご指導、ご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶といたします。



年頭のごあいさつ

全国土地改良事業団体連合会

会長 二階 俊 博



令和7年の年頭に当たり、全国の土地改良事業に携わっておられる皆様に謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

昨年は、年始めの1月1日に石川県能登地方を震源とした震度7の大地震が発生し、能登半島を中心に甚大な被害が発生するとともに、9月には記録的な豪雨により奥能登ではさらに被害が増し、能登半島は未だ復旧、復興の途にあります。

また、全国各地で記録的な豪雨が相次ぎ、大きな被害が発生しました。被害を受けられた地域の日も早い復旧・復興を祈念するとともに、我々土地改良団体も団結して被災地の支援に取り組んでいかなければなりません。

さて、令和7年の干支は乙巳（きのとみ）であります。努力を重ね、物事を安定させていくという意味合いを持ち、これまでの努力や準備が実を結び始める時期とされています。これまで我々土地改良関係者が積み重ねてきた様々な努力が実を結ぶ年となることを強く祈念するところです。

昨年、食料・農業・農村基本法が改正され、「食料安全保障の強化」、「環境と調和のとれた食料システムの確立」が新たな柱に位置付けられました。令和7年度農林水産関係予算は、農業の持続的な発展、農村の振興等を図るため、農業の構造転換の実現に向けた施策を初動の5年間で集中的に実行するとともに、農林水産業の持続可能な成長を推進するための予算となっており、農業農村整備事業関係予算においては4,464億円が確保され、令和6年度補正予算を加えると6,500億円となります。皆様の熱意ある要請活動と農林水産省をはじめとする関係各位の御尽力に厚く御礼を申し上げます。

第5次男女共同参画基本計画及び土地改良長期計画において、令和7年度までに女性理事が登用されていない土地改良区及び土地改良区連合をゼロに、併せて女性理事の割合を10%以上とすることが成果目標に設定されており、いよいよ最終年度を迎えました。皆様の御理解をいただき着実に女性理事の登用が進められてきたところですが、目標達成に向け、更なる取組をお願いしたいと思います。将来の土地改良団体の体制強化と発展には女性の力は必要不可欠です。女性が活躍できる環境づくりに関係各位の一層の御理解と御協力をお願いします。

そして、本年は我々の職域の代表である宮崎雅夫さんの勝負の年ともなります。もう一人の代表である進藤金日子さんと共に全国津々浦々の現場を回り、皆さんの声を聞き、現場が直面している課題解決の処方箋を国の政策に反映させるよう奮闘しておられます。二人体制の重要性を十分に御理解いただき、皆さんの声を国会に届けるためにお二人の活動の支援をお願いします。

「農業農村の振興」を果たすためには、限りなく闘い続けていかなければなりません。「闘う土地改良」を旗印として組織一体となって更なる闘いを続けていこうではありませんか。

輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様の地域の農業・農村が活力を得て、一層発展するよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、本年が全国の皆様にとって良き年であり、日々健やかに過ごされますよう御祈念申し上げ、新年の御挨拶といたします。



新年にあたって

全国水土里ネット会長会議顧問

参議院議員 進藤 金日子



鳥取県土地改良事業団体連合会の皆様には、平素よりお世話になっております。

昨年は元日に能登半島地震、8月に宮崎県沖地震が発生し、南海トラフ地震の発生可能性が高まり、巨大地震注意臨時情報が発表されました。改めて地震大国日本を感じ、国土の防災・減災、国土強靱化を進めていく必要性を痛感した1年となりました。

昨年6月には食料・農業・農村基本法が改正され、初動の5年間で「農業構造転換集中対策期間」として農業政策の再構築を図ることとしており、本年は初動一年目の重要な年となります。

また、私は一昨年の12月14日から約11ヶ月間、財務大臣政務官を務め、国の財政について日常的に接する機会を得ました。国家財政の観点からも我が国の将来像を考えていく必要があります。

さて、現在の防災・減災、国土強靱化5か年加速化対策は、計画期間が令和3～7年度、事業規模は概ね15兆円程度となっています。現在、次期対策の国土強靱化実施中期計画の検討が進められていますが、この計画に土地改良について「農業水利施設等の老朽化、豪雨・地震対策」や「防災重点農業用ため池の防災・減災対策」等を位置付け、事業規模も現対策以上の規模を確保する必要があります。

次に農政については、本年3月までに食料・農業・農村基本計画が策定されます。政府の方針は、「輸入依存度の高い麦・大豆の増産、水田政策を見直す取組、輸出の抜本拡大を図る取組等について効果的な政策を基本計画に盛り込む」（令和6年8月27日、「食料安定供給・農林水産業基盤強化本部」）ことであり、今後、具体的な検討が進められます。

食料安全保障の確保のためには、食料自給力の強化が不可欠で、①土地改良対策、②担い手対策、③試験・研究、普及・生産対策をパッケージで実施することが必要です。このうち、土地改良については、令和6年度補正予算の2,037億円と令和7年度当初予算政府原案の4,464億円を加え、6,500億円の予算を確保しました。この予算を活用して対策を進めていく必要があります。

最後に我が国財政を見てみます。令和6年度末の公債残高は、特例公債（いわゆる赤字国債）残高が803兆円、建設公債残高が298兆円で1,105兆円となる見込みです。この15年間に公債残高はほぼ倍増し、赤字国債は2.26倍、建設公債は1.25倍となっています。建設国債は社会资本ストックを後世に残すことから、後世に負担を求めることが可能ですが、赤字国債の負担を求めることは困難です。デフレから完全脱却して経済成長を促し、将来にわたり税収を増やして財政の健全化を図り、後世の負担を軽減し、政策選択の自由度を確保することが重要です。

農政や国土強靱化、我が国経済の転換の節目である令和7年のはじめにあたり、決意新たに農業農村の振興、国家の発展に向けまい進していきたいと考えています。同志の宮崎雅夫議員共々皆様からのご指導とご鞭撻を心からお願い申し上げますとともに、鳥取県土地改良事業団体連合会の一層のご発展とご繁栄をお祈りいたします。



新年にあたって

全国水土里ネット会長会議顧問

参議院議員 宮崎 雅夫



鳥取県土地改良事業団体連合会ならびに会員各位、関係の皆様方におかれましては、日頃より地域の重要な資源である水と土を守り、地域農業の発展や農山村の活性化に向け、土地改良事業の円滑な推進や施設の適切な管理にご尽力いただいておりますことに心から敬意を表しますとともに、私、宮崎雅夫の国政活動に多大なるご支援とご指導を賜り衷心より感謝申し上げます。

また、昨年も能登半島地震をはじめ、全国各地で甚大な災害が発生しました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く日常生活を取り戻して頂けるよう、復旧・復興に最大限の努力をしてまいります。

さて、昨年は、社会情勢の不安定化等に起因し、食料や資材価格等が高騰するとともに、全国的に食料供給に対する懸念も広がった1年でした。食料は、生命維持に不可欠なものであり、どのような事態が生じたとしても安定的に確保することが国の責務であります。このような状況に対応するため、四半世紀ぶりに「食料・農業・農村基本法」を大幅に改正しました。

私も皆様方から多くのご支援をいただきながら、現場でお聞きした皆様のお声やご要望等に対し、それぞれの状況に即して、国政の場から全力で対応してまいりました。土地改良関係の令和6年度補正予算では、昨年度の補正予算から260億円増の2,037億円を確保できました。加えて、12月に閣議決定した令和7年度当初予算案では、前年度を上回る4,464億円が計上され、補正予算と合わせて総額6,500億円を確保することができました。皆様方のご尽力に感謝申し上げますとともに、次期通常国会において、早期成立に向け努力してまいります。

また、改正基本法に沿って、土地改良法を始めとする関係法令等の新設・改正を行うこととしています。特に、本年は改正基本法を実効あるものとしていく「農業構造転換集中対策期間」5ヶ年がスタートする年であり、より良い施策展開のためには、現地課題等を十分に把握し、それに対応したものとなるよう全力で対応してまいります。

本年は私にとって節目の年となりますが、引き続き「食・土地改良・農山漁村は未来への礎」を基本理念として、皆様のお声を国政に届け、必要な予算の確保と現場の実情に即した制度の充実に向け、誠心誠意努力してまいります決意ですので、引き続きのご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、鳥取県土地改良事業団体連合会ならびに会員各位、関係の皆様方の益々のご発展とご健勝を心より祈念申し上げます。

第2回 監事会

令和6年度 第2回 監事会を12月3日（火）鳥取県土地改良会館において、監事3名の出席のもと開催しました。竹本代表監事の挨拶の後、事務局より報告事項、その後、「監査項目の実施計画」に基づき、令和6年度の間接監査を実施しました。

「監査事項」

- (1) 法令・定款・規約及び諸規程遵守に関する事項
- (2) 事業運営に関する事項
- (3) 事業計画及び業務の執行に関する事項
- (4) 会計事務及びこれの処理に関する事項



監査の様子

令和6年度 統合整備推進研修（会計研修）

12月17日（火）に水土里ネットとっとりが新日本海新聞社 中部本社ホールにおいて、複式簿記に取り組んでいる土地改良区を対象として「統合整備推進研修（会計研修）」を開催し、土地改良区等から37名の参加がありました。

開会にあたり、水土里ネットとっとり 坂本総務部長が「本日も集りの皆様は、すでに複式簿記に取り組まれているので、午前の講義は復習として、午後の講義は新たな気づきがあれば、今後に生かして頂きたい。」と挨拶しました。

午前中は、全国水土里ネット 支援部 金内主査より「財務諸表等の作成手続き（基礎編）（実践編）」について講義がありました。

午後からは、全国水土里ネット 支援部 田中主幹より「会計処理事例紹介」について、最後に、金内主査より「財務諸表等を活用した財務分析の方法、及び財務分析活用事例紹介」の講義がありました。

研修会終了後のアンケートには、「財務諸表等の作成手続きについて、再確認することが出来た。」「チェックする方法を分かり易く説明頂き参考になった。」など、好評を頂きました。会計処理事例紹介については、「実際の事例であり、とても参考になった。」など、大変有意義な研修となりました。

なお、複式簿記に関するご相談は、引き続き本会で受付しています。ご不明な点など何かございましたら、お気軽にご相談ください。



坂本総務部長の挨拶



研修の様子



愛と絆のある農業・農村をめざして
みどりの水土里を愛する
なかまたちを順次ご紹介

水土里ネットとっとり 計画設計課 技師 山根 駿 佑



卒業式にて

皆様、初めまして、山根駿佑と申します。本年度より水土里ネットとつとりに採用となり、配属となった計画設計課で働いています。昨年度まで通っていた香川大学では創造工学部 造形・メディアデザインコースを専攻し、その技術を生かした地域活性化をテーマとした研究室に所属していました。主にイノベーションに関連する研究を行い、卒業研究では香川県の名産品である「香川漆器の存続とこれからの発展について」というテーマを扱いました。研究を行いながら就職活動を行っていた時、教授にUターンを提案していただき、地元である鳥取で就職することにしました。農業とは関わりが薄い経歴ですが、これから様々な



香川漆器

ことを学び出来ることを増やして行きたいです。

さて、ここからは趣味の話をしたと思います。私は、今までやったことのない事に挑戦するのが好きな性格で、いろいろな趣味があります。その中でも、ずっと続けているのは読書とサイクリングです。学生時代には、毎日一冊ペースで単行本を読んでおり、自転車で遠くに出かけてその場所で本を読むのが休日の過ごし方でした。最近では読む量も少なくなってきましたが、このスタイルは今でも継続して行っています。



よく行った玉藻公園(高松城跡)

また、最近では、ライブ観賞が趣味に加わりました。旅行も兼ねて県外に行くことが多く、先月は東京に弾丸日程で向かっていました。一年前まではコロナが大流行中だったこともあり、オフラインのライブにはあまり参加できなかったのですが、最近では現地でのライブも増えてきてよく出かけています。同じ人たちが好きな人たちと同じ空間を共有して盛り上がる体験は、日常生活ではあまり味わえない感動があるので、参加したことがない方にはぜひ一度は行ってみたいと思います。私がよく見に行っているアイドルの方たちは、ライブ会場の近くのおすすめグルメをまとめてくれているので、開演前に友達と合流してお店によるのもとても楽しく、この間行ったカフェのカフェオレはとても好みに合っていたので、ライブに関係なく東京に行ったときは、また寄りたいたいと思っています。他にも、ライブに関係なく行ってみたい場所はたくさんあるので、今年はいろいろな景色を見に行きたいです。

今後は仕事、プライベートともに様々なことに挑戦し、成長して行きたいと考えています。



Cafe au lait Tokyo



編集後記 あけましておめでとうございます🎉今年の年越しは友達と出雲大社でカウントダウンをしてきました。若者たちが拝殿前に集結し、年越しの瞬間はフェスのようないい感じでした！初日の出も見ることができて良い一年になりそうです。本年もよろしくお願いたします😊 (松村)